

山北営農だより 令和8年3月 No.2

【う め】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

施肥 3月中旬 ○梅配合 80kg/10a (樹勢を安定させ着果後の肥大促進を目的)

病害虫防除 3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 硬核期まで 50g/100㍓
(クレフノン200倍 500g/100㍓加用)

※この時期のかいよう病防除は重要防除になります。必ず散布し、加工果実を減らしましょう。

3月中旬～下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水100㍓

又はチェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水100㍓

○灰色かび病・黒星病 ベルクートフロアブル 収穫30日前 3回 2000倍 50ml/水100㍓

※灰色かび病の防除適期は落弁期(花びらの80%が散った時期)であるが品種によって開花時期が異なるので状態に合わせて防除する。

<黒星病の防除について>

黒星病の発生が非常に多くなっています! 4月上旬～中旬、下旬、5月上旬の春先の防除が有効になりますので徹底しましょう! 特に、5月上旬の防除をされていない園は、4月の防除に加え今年は必ず防除をするようにしましょう!

4月上旬～中旬 デランフロアブル 収穫14日前 2回 2000倍 50ml/水 100㍓

又はペンコゼブフロアブル 収穫21日前 3回 1000倍 100ml/水 100㍓

4月下旬 ストロビードライフフロアブル 収穫7日前 3回 3,000倍 33g/水100㍓

5月上旬 スコア顆粒水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水100㍓

*2週間間隔で散布しましょう。

*前年の被害枝は切除しましょう。

【キウイフルーツ】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

施肥 3月中旬

○キウイフルーツ配合 654 100kg/10a (新梢の充実と初期肥大促進を目的)

病害虫防除 3月上旬(剪定後)

○カイガラムシ類 スプレーオイル 100倍 1000ml/水100㍓ 混用

アプロード水和剤 収穫前日 2回 1,000倍 100g/水100㍓

3月中旬(発芽前)

○かいよう病 ICポルドー66D 収穫後～発芽前 50倍 2㍓/水100㍓

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml/水100㍓

※キウイヒメヨコバイの多発園ではこの時期防除することにより発生を減らすことができます。

【ニンニク】

○春腐病 Zポルドー 500倍 200g/水100㍓

又はアグリマイシン 100 収穫7日前 3回 1,000倍 100g/水100㍓

【お茶】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

施肥 2月下旬と3月中旬

○足柄茶配合O33 を 2月下旬に3袋/10a と 3月中旬に2袋/10aの2回施肥

病害虫防除 3月上～中旬

○カンザワハダニ バロックフロアブル 摘採14日前 1回 3,000倍(33ml/水100㍓)

又はダニゲッターフロアブル 摘採7日前 1回 2,000倍(50ml/水100㍓)

○もち病 ドイツボルドーA 摘採14日前 500倍(200g/水100㍓)

4月上中旬

○ツグアカシカキ多発園 キラップフロアブル 摘採7日前 1回 2,000倍(50ml/水100㍓)

【ジャガイモ】

芽かき 地上部に出た芽が10㍓程度に伸びたら、太い茎を2本残り他の茎を根元から取る。(特に春作)

追肥・土寄せ 芽かき後、NK化成1kg/aを施し、株元に5㍓程土寄せする。半月後にもう一度NK化成2kg/aと土寄せを行う。

※ジャガイモは種イモより上にできるので、イモに日光が当たり緑化しないようにしましょう。

※ただし、生育初期から多くの土を寄せると新しいもの生育が遅れる。

【ダイコン】

春まき 3月中旬～4月下旬

畑の準備

苦土タンカルを土になじむよう、播種の半月以上前に畑全体に施し、根が伸びやすいよう、深く耕します。(40㍓以上)

元肥は MMB 燐加安 262号 10kg/a を播種1週間前くらいに畑全体に施し、軽く土と混和する。

播種 点まき 畦間60㍓・株間25㍓ 3粒

西湘はるみ米研究会 新規会員募集案内

平成30年度に立ち上げたこの研究会は、水稻「はるみ」を品質と食味にこだわって栽培し、研究会ブランド「さかわのめぐみ」の生産・販売に取り組んでいます。

- ・活動内容：勉強会・圃場巡回・土壌診断・定期総会等
- ・募集期間：令和8年2月24日(火)～3月23日(月)
- ・申込方法：最寄りの支店又は営農経済センター(申込書は店舗に用意してあります。)

※加入については以下の条件を満たす必要があります。詳細は営農経済センターにお問合せください。

	必ず取り組む項目		3つ以上取り組む項目
必須条件	栽培面積おおむね10a(1反)以上	選択条件	「土壌診断の実施」 「稲わらのすきこみ」
	種子更新率100%		「堆肥の投入」 「春まで2回以上耕耘」
	圃場ごとの生産履歴の提出・GAPの取り組み		「ケイ酸肥料施用」
	調製は1.8mm以上で行う		「化学肥料を県基準慣行の30%削減」
			「化学農薬を県基準慣行の30%削減」
			「地域の水利に合わせた適期の中干し」
			「疎植栽培(50株/坪以下)」
			「元肥+追肥体系」